

澤田 48

そのゆゑに足と悦のこゝに出来なくある。佛殿

キリあり敷、沖道の各部池家池の宗廟が祈する沖、

佛と格べこみる ~~池~~ 明夫々にんとい 玉打つてある。悉

沖が穢れである。歪偏つた 沖の右に池対の境へ還へ

る道が穢である。その歪沖の右に所から替病の

辻角へ出で行く道が布斗麻道である。

三十一 趙州劫後一趙州の内下の仔細成

明あふまんに五台山への道 ~~池~~ 池の宗廟 在うよ

かと同ふた。あふまんに山の宗廟 行けしと ~~池~~ 7

日登松

48

その傍が三~~回~~歩行つた~~ら~~あ
お嬢さんかあ云つ

た。お嬢さんどうや~~ら~~行くのかわ~~ら~~。後その

傍~~ら~~此の話しを~~し~~。州が云つた~~ら~~行つて、~~君の~~

~~君~~日~~出~~お嬢さんを探~~し~~て行つて~~ら~~。お嬢

日出かけに行つて同じ~~ら~~お嬢さんかあ

さんと同じ~~ら~~お嬢さんかあ。州が帰つてお嬢さん~~に~~謂

つた。五~~は~~山のお嬢さんと君のお嬢さん

来た~~ら~~。お嬢さんかあ~~ら~~。お嬢さんかあ~~ら~~。お嬢さんかあ~~ら~~。

算~~る~~ことと知~~つ~~て~~ら~~。お嬢さんかあ~~ら~~。お嬢さんかあ~~ら~~。

お嬢さんかあ~~ら~~。お嬢さんかあ~~ら~~。お嬢さんかあ~~ら~~。

「お早う」 「今日は」 「お早う」 「お早う」 これがそのお早うの心算である

百りの言葉のやり取りの中へ ~~福~~ 起機 ~~お早う~~

~~福~~ 福の効用がある ~~お早う~~ 起 ~~お早う~~ 起 ~~お早う~~ 起 ~~お早う~~ 起

福の効用がある ~~お早う~~ 起 ~~お早う~~ 起 ~~お早う~~ 起 ~~お早う~~ 起

かえ出こ来る道が摩訶である。

(三十二 外道向佛) 世尊に取外外道の

~~お早う~~ 言葉で ~~お早う~~ 道と向の

世尊はその位座に坐すのである。外道は體

して云つた。世尊の大慈大悲は教の道と向

悟りて後しめて下まつた。

三十二 ~~外道同佛~~ ^礼 としと去つた。

阿羅伽が池で佛に向ふた。外道は阿王に説きし得

て驚かして去つたのどりか。世多の事つた。

良馬が鞭影と見えて行く如しである。一一一一

阿羅伽佛弟の如か外道の如く及ぼす。一一一一

が外道と佛弟とを比べた位差があるのか。一一一一

稗的妄言の考知しは、叙の及の上下に如く、

氷の角を走る様 ^嶽 ^最 ^{なるもの} である。南

天に天を地を絶す。一石根倦かき、

其の行くには必しも傳教

である。成程佛が居る。人子に生きた下ら佛に成れる也。	即佛の靈依である。外道はそれと顔二悟つたの	てある	と向ふた。その外道は其の徒に空に坐す	その外道は其の徒に空に坐す	教のキリヲト教の徒に空に坐す	外道は佛の徒に空に坐す	時佛の徒に空に坐す	神靈つりてある	の階程を登つて来りくともよい
----------------------------	-----------------------	-----	--------------------	---------------	----------------	-------------	-----------	---------	----------------

それは事實だと。

古佛と云はれる道元はその靈依を空に居つて居た。即心

古佛が示現したのは

衝動的に向はく
内我が

(三十三) 非心非佛一馬祖の或作修の向ふ

と。『如河のるか星は佛』。記の答へに「心は非ず

佛は非ず」……若し此の向の消息が判つた

らば考證修学の卒業つて卒業だ。……路は銀

客に逢つたら銀を云上見、詩人の遇はざれば

話と敵がら暮かた。人に逢つたら銀の三分

を談らおらひ、非心非佛など全部(全一光)

百類を施すべからず。(以上は某大意)

即心即佛と非心非佛も同じ事 ~~非~~ 智音的

有否定の両面である。両面は否定と肯定である。

何の爲に即心即佛と説くか。小兒の啼哭のを

止りんが爲なり。啼き止んが時如何うか。

非心非佛し。即心即佛は病にして其の

非心非佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

即心即佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

非心非佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

非心非佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

非心非佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

非心非佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

非心非佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

非心非佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

非心非佛は病にして其の非心非佛は病にして其の

一三十四 智の道

だが此の公算が向道にしろければならぬ

は「参考の事案」の一語である。門禁命は

非心非佛（と改む）の中一系にである。玄（み）に達する

時考務考事の修業は終ると云つたが、それま

で佛敎の全部であるとしたら大きな錯り

ある。佛敎（それ）は異なるが佛敎の（初めの一階級としての）小乘（自己救済の道）

道を知り。其の東洋（仙敎）はすべからぬ。此の小乘

の解説は止まつて其の完成として

此の境涯は實にへり出資（業）であつて、其の考

菩提涅槃の道としての佛敎

仙敎

（其の）先づ此の小乘

自己救済の道

云ふ事と定念の解法するところが大乗(菩薩)とし

ての意の道なりと、佛の道と一切

絶對「佛の誓念(一切強佛の誓念)」摩訶菩薩

と云ふ摩訶菩薩と染らんがたのれ解法

云ふのが雲の佛の道なりと、その意

有の河は神道なりと云ふに云ふに云ふに

すやほち字上正覺とは市井麻道

三輪の神道の神道を用云ふのでありと

示したるが法華經の要義なり

観音菩薩の法華經にありと云ふに云ふに

一三十四 智不足道一南泉が云つた。心は

是れ佛のあらざる、智は是れ道にあらざる。一一一一

南泉は年をいって蓋を識らず、口を南りて禪の

内 ~~意~~ ~~心~~ ~~を~~ ~~隠~~ ~~す~~ ~~に~~ ~~学~~ ~~ぶ~~ ~~の~~ ~~故~~ ~~を~~ ~~云~~ ~~ふ~~ ~~に~~ ~~出~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~う~~

かこ云つて此の思と知る者は少ない。一一一一

~~空~~ が暗れと曰か出る。雨が降つて地が ~~濡~~ ~~か~~ ~~い~~ ~~の~~ ~~。~~

情を尽して ~~都~~ ~~す~~ ~~べ~~ ~~く~~ ~~洗~~ ~~き~~ ~~了~~ ~~つ~~ ~~て~~ ~~な~~ ~~る~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~ま~~

あり ~~取~~ ~~り~~ ~~け~~ ~~れ~~ ~~ば~~ ~~何~~ ~~ら~~ ~~い~~ ~~。~~ ~~(~~ ~~多~~ ~~量~~ ~~大~~ ~~意~~ ~~)~~

佛の心 ~~か~~ ~~を~~ ~~い~~ ~~る~~ ~~。~~ ~~同~~ ~~本~~ ~~作~~ ~~。~~ ~~道~~ ~~は~~ ~~智~~ ~~が~~ ~~活~~ ~~動~~ ~~す~~ ~~る~~ ~~。~~

子 ~~律~~ ~~軌~~ ~~範~~ ~~を~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~。~~ ~~心~~ ~~を~~ ~~以~~ ~~て~~ ~~傳~~ ~~へ~~ ~~ば~~ ~~何~~ ~~ら~~ ~~い~~ ~~。~~ ~~智~~ ~~識~~

と捕へばうとしたり

まううとしこも不うである。存在の次元を問はするからである。

道に
~~道に~~
心悟と
悟解の
由

素々の
悟あり
道に
ある。
心悟が
まわれ
悟解

が
悟
た
悟
道
の
記
あ
す
る。

（その次元の非がゆげに）

（結果として）
言葉を換われは

（の曇り）

（のくだり）

真如